Chikushino No.1109
2018年5月15日号

文化薫道

～文化の風が吹くまち ちくしの～

問い合わせ先／文化財課（歴史博物館内）☎（921）8419

其の二十九 再生の宝満山

古代から信仰の山であった宝満山は、戦国時代の争乱などで江戸時代初めには荒れ果ててしまい、修験の山として成り立たなくなっていたと『竈門山旧記（かまどやまきゅうき）』（竈門神社所蔵）に伝わります。

このような状況の宝満山を万治元（1658）年～元禄元（1688）年の間、宝満二十五坊の衆頭（しゅうとう）として務めた平石坊弘有（こうゆう）は、延宝元（1673）年の宝満宮草創一千年祭を機に山の復興を行い、活気に満ちた宝満山へとよみがえらせていきます。

その宝満山の復興を示すものとして、市歴史博物館で展示している市指定有形文化財「寛文九年十二月平石坊権大僧□和尚銘瓦質祠」があります。この祠に刻まれた文字から、弘有が寄進したものであることが分かります。

平石坊の銘を刻む祠（ほこら）

隆盛した宝満山修験道ですが、明治元（1868）年の神仏分離令によって、修験者たちは山を下りることになり存続の危機を迎えてしまいます。

しかし、志ある修験者たちによって明治22（1889）年に峯入行（山中修行）が再開、さらに昭和57年には筑前国宝満山修験会が結成され、大護摩供（だいごまく・野外の護摩法要）も復活しました。

今年も5月27日（日）に竈門神社境内で大護摩供が行われます。この機会に宝満山修験道再生までの歴史と文化をぜひ、ご体感ください。

※「□」は欠けて文字が読めない部分です。

竈門神社境内での大護摩供の様子

発行／筑紫野市　編集／秘書広報課
〒818-8686 福岡県筑紫野市二日市西一丁目1番1号 ☎092(923)1111 FAX092(923)5391
印刷／久野印刷株式会社
発行部数／41,600部